



海自入隊予定者が潜水艦と潜水訓練の様子を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、2月7日（木）、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）において入隊予定者の潜水艦及び潜水医学実験隊見学を実施した。

これは、この春海上自衛隊へ入隊予定の学生などを対象に、現場で任務にあたる海上自衛官の生の声を聞くことにより、入隊に対しての疑問や不安を解消してもらうために行われ、県内各地から8人が参加した。

当日は最初に、世界最大のディーゼル潜水艦で、静粛性に優れているそうりゅう型潜水艦「こくりゅう」を見学。初めて潜水艦を目にした入隊予定者からは「苦勞していることはありませんか」「潜水艦で勤務するにはどうしたらいいですか」と積極的に質問する姿が見られ、「入隊後は護衛艦に乗りたいたいと思っていたが、潜水艦にも興味が出てきた」という声も聞かれた。

続いて見学した潜水医学実験隊では、屈強な潜水員の厳しい訓練の様子や精巧な装備器材を扱う卓越した隊員の姿を間近で見学し、入隊後の職種選択の参考になったようである。なお、潜水艦への乗務については、昨年末、女性自衛官も起用できるよう配置制限を解除している。

静岡地本は、これからも部隊見学の機会を活用し、入隊予定者の不安を一掃できるよう尽力していく。

陸自ヘリ体験飛行で大興奮 | N御殿場



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、2月10日（日）、アメリカ海兵隊キャンプ富士内にある富士場外離着陸場（御殿場市）において、陸上自衛隊東部方面ヘリコプター隊等の協力のもと「UH-1J型ヘリコプター」の体験搭乗を行った。これは県内の入隊予定者や自衛官を目指す若者等を対象に行われ、40人が参加した。

はじめに格納庫内においてヘリコプターの機体の大きさや性能などの説明があり、特に富士飛行班所属のパイロット、小野裕一等陸尉が自らの飛行体験談を披露し、将来ヘリコプターのパイロットを目指す若者から大空に関する質問が相次いだ。

次に飛行場エプロン地区に移動して体験搭乗時の注意事項の徹底がなされ、離陸までの間、駐機中の機体をバツクに思い思いに記念撮影に興じた。

フライトは6、7人のグループに分かれて機内に乗り込み、興奮冷めやらぬうちに離陸すると進路は御殿場市街から箱根に向かい、噴煙が立ち上る大涌谷や雄大な芦ノ湖などの上空に一瞬の間にさしかかり、参加者はそのヘリコプターの能力に感じ入っていた。

参加者からは「離陸した時には胸が熱くなり、上空から見下ろす街並みや山々が壮観だった」「今回の体験搭乗を経験し、この国を守る自衛隊で活躍したいという気持ちが高まった」などの感想が寄せられた。

静岡地本は今後もこのような自衛隊を体感できる機会を積極的に活用し、自衛官という職業の魅力を多くの若者に知ってもらうとともに、熱意ある志望者の支援に努めていく。

静岡市で盛大に入隊・入校予定者を激励



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は2月17日（日）、静岡市ふれあいホールにおいて行われた「静岡市入隊入校激励会」を支援した。

この激励会は、静岡市、同市商工会議所、同市自衛隊協力会、清水自衛隊友の会が合同で、毎年春に入隊・入校を予定する静岡市内の若者を激励しようとして企画され、今年も入隊・入校激励会と音楽演奏会の2部構成で開催された。

激励会には、入隊・入校予定者40人とその家族が参加。同市内の各区自治会連合会長、募集相談員中部連絡会長並びに静岡及び清水自衛隊家族会両会長が来賓として参列し、若者の輝ける未来を盛大に祝福した。

第1部の激励会では、担当募集事務所長が入隊・入校予定者一人ひとりの名前と採用種目を紹介したほか、主催者を代表して田辺信宏静岡市長が、自衛隊を代表して宮川知己静岡地本長が、それぞれ心温まる激励の言葉を送った。続けて、入隊・入校予定者を代表して、航空自衛隊幹部候補生として入隊する八木朱里（やぎ あかり）さんが「大きな期待を胸に抱いて、日々の訓練を同期と切磋琢磨し、一人前の自衛官となれるよう精進していきたい」と今後の抱負と両親への感謝を述べた。

一方、第2部の航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）による演奏会では、静岡市長からの熱い要望の静岡市歌「わたしの街静岡」や、自衛官の1日の行動合図をラップ音で表し軽快なメロディーにした「ラッパ吹きの平日」などが披露され、入隊・入校予定者の新たな門出を祝福した。

静岡地本は、今後も入隊・入校予定者が抱く不安を解消していくとともに、家族へのサポートを行い、隊員と家族の架け橋となるよう努めていく。